

九州生乳販連会報



TOPICS

第25回通常総会を開催	1
役員体制について	2
令和5年度事業報告	3
令和5年度生乳品質共励会について	10
酪農家の皆様へ	12
酪農情勢報告	14
令和5年度乳用牛繁殖改善事業の実績について	15
加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ	15
令和6年度会員別生乳受託販売数量 / 令和6年度月別受託生乳検査成績	16
令和6年度販売状況について	17
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	18
令和6年度牛乳利用拡大推進運動について	20
酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中!	20

第25回通常総会を開催

去る7月24日、福岡市内のホテルにて第25回通常総会を開催しました。ご来賓として農林水産省・九州農政局を始め、(一社)中央酪農会議・(一社)Jミルク・九州管内県庁畜産課・全農・全酪連よりご臨席を賜り、代表して農林水産省牛乳乳製品課 中坪康史調整官、中央酪農会議 寺田繁事務局長よりご祝辞をいただきました。

令和6年度の事業計画につきましては、去る3月27日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の4議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

令和5年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

第2号議案

役員の選任について

第3号議案

役員退職慰労金の支出について(案)

第4号議案

定款の一部改正(案)について

本総会の終結時をもって、清末健一代表理事副会長、西史明監事及び立山行広監事は退任されました。

なお、総会終了後の理事会及び監事会において、代表理事会長に中村隆馬理事、代表理事副会長に中島清理事、代表理事常務に稗島喜美男理事、そして代表監事には小野幾郎監事が選任されました。

(役員体制については次ページ)



中村会長



中坪調整官



寺田事務局長



有村議長

役員体制について

1. 役員名簿（令和6年7月24日現在）

役職	氏名	出身会員等	備考
代表理事会長	中村 隆馬	長崎県酪農業協同組合連合会	
代表理事副会長	中島 清	ふくおか県酪農業協同組合	昇任
代表理事常務	稗島 喜美男	学識経験者	
理事	佐々木 慎一	佐賀県農業協同組合	
理事	大川 清治	熊本県酪農業協同組合連合会	
理事	本川 和幸	大分県酪農業協同組合	新任
理事	平島 善範	宮崎県経済農業協同組合連合会	
理事	有村 洋平	鹿児島県酪農業協同組合	
代表監事	小野 幾郎	大分県酪農業協同組合	
監事	野上 利幸	長崎県酪農業協同組合連合会	新任
監事	迫 竜一	鹿児島県酪農業協同組合	新任

<新任役員のご紹介>



本川理事



野上監事



迫監事

2. 退任役員

代表理事副会長	清末 健一
監事	西 史明
監事	立山 行広

令和5年度 事業報告

I 一般概況（抜粋）

酪農経営においてはコロナ禍、ロシア・ウクライナ戦争や円安の影響から端を発した世界的な食料、燃料、飼料、生産資材の高騰から生乳生産コストは高い水準でとどまっており、依然として厳しい状況です。生乳需給はコロナ禍による牛乳・乳製品の消費の落ち込みや脱脂粉乳とバターの消費の跛行性の違いから脱脂粉乳の在庫が積み上がりましたが、4年度より乳製品在庫対策に取り組んできたこともあり、脱脂粉乳の在庫は5年度末には5万トンを下回るまで減少しました。このような中、生産コスト上昇を補うため複数回にわたって乳価値上げが行われましたが、値上げの影響から牛乳・乳製品の消費が減退し、生乳需給への影響も表れています。値上げによる消費減退のリスクも考えて、次年度以降も引き続き生産者・乳業者・国が一体となって乳製品在庫対策に取り組み、生乳需給の改善を目指す必要があります。

5年度の生乳支払乳価は前年度と比較して11.822円/kg上回りました。生乳生産コストの高止まりを受けて乳価交渉に取り組み、4月分から脱脂粉乳・バター等向け、生クリーム等向け、チーズ向けが10円、8月分から飲用向けとはつ醇乳等向けが10円、12月分からバターと生クリーム仕向けの取引価格が6円値上げとなったことと用途別販売において飲用化の推進や脱脂粉乳・バター等向けを抑制したことが上回った要因になります。

生乳生産量については前年度の生乳需給改善のための生産抑制の影響もあり552,402t（計画比97.5%、前年度比96.0%）と計画・前年度ともに下回りました。酪農家戸数についても厳しい経営環境から離農廃業の前年度を下回ったものの62戸が離農廃業となりました。

引き続き、生乳販売においては飲用化の推進、用途別販売数量の管理、経費削減による総合乳価の向上に取り組み、理解醸成・消費拡大は酪農と牛乳・乳製品の価値訴求、生乳検査精度の維持と酪農経営に役立つ検査を実施することに努めてまいります。

1. 生乳受託販売数量

「3年間（令和3年度～令和5年度）は、前年実績以上を目標数量として設定する」中期対策（第4期）の3年目となる中、一般社団法人中央酪農会議においては抑制型の出荷目標数量を設定することが示されま

したが、九州においては、生産者の計画的な生乳生産のため、各会員を通じて生産者ごとの計画数量を取りまとめた生乳委託計画の数量である580,455,008kg（前年比100.9%）をそのまま目標数量としました。

このような中、生乳受託販売数量は、前年度から続いている生産抑制の取り組みや飼料を始めとした生産資材価格の高騰が続いていることが影響し、6、7月には前年比92%台まで落ち込みましたが、下期には乳価改定による酪農環境の改善や経産牛頭数の回復、また前年度が低調に推移した反動もあって徐々に前年度に近い推移となり、1月以降は前年比98%台（2月は閏年補正後）まで回復しました。

結果として、上期は273,526t（計画比97.2%、前年比93.9%）、下期は278,876t（計画比97.7%、前年度比98.2%）、年度計では552,402t（計画比97.5%、前年度比96.0%）と計画・前年度ともに下回る実績となりました。（表1）

表1 月別生乳受託販売数量実績（単位：計画t、実績kg、%）

月	事業計画	実績	計画比	前年比
4	51,000	49,758,062	97.6	94.3
5	51,600	49,940,340	96.8	93.6
6	47,400	45,771,974	96.6	92.8
7	45,000	43,586,494	96.9	92.0
8	43,300	42,484,423	98.1	95.4
9	43,100	41,984,227	97.4	95.5
上期計	281,400	273,525,520	97.2	93.9
10	45,400	44,366,712	97.7	95.7
11	44,700	43,903,991	98.2	96.7
12	47,300	46,370,059	98.0	97.7
1	48,600	47,521,940	97.8	98.1
2	47,100	46,165,735	98.0	102.4
3	52,200	50,547,840	96.8	98.4
下期計	285,300	278,876,277	97.7	98.2
年度計	566,700	552,401,797	97.5	96.0

2. 生乳販売

令和4年11月に続き、令和5年度は4月、8月、12月の3回、用途別販売乳価の改定を実施したことに伴い、牛乳・乳製品価格も値上げされたことから、消費は低調に推移しました。インバウンド需要は回復傾向にある一方、国内消費が物価高の影響を受けて減少していることも低迷の要因となっています。

飲用牛乳等向けは、前述のとおり価格改定の影響を

表2-1 用途別販売実績

(単位:計画 t、実績 kg、%)

用 途	計 画	実 績	計画比	前年比	構成比
域内飲用	288,190	280,575,371.4	97.4	96.6	50.8
学 給	41,200	40,412,600.6	98.1	101.1	7.3
域外飲用	76,060	65,071,121.4	85.6	84.3	11.8
飲 用 牛 乳 等 向 け 計	405,450	386,059,093.4	95.2	94.7	69.9
は っ 酵 乳 等 向 け	82,050	84,682,628.6	103.2	100.7	15.3
脱脂粉乳・バター等向け	50,000	52,485,846.0	105.0	97.4	9.5
ク リ ー ム 等 向 け	28,081	28,067,075.0	100.0	97.9	5.1
チ ー ズ 向 け	1,119	1,107,154.0	98.9	97.5	0.2
計	566,700	552,401,797.0	97.5	96.0	100.0

受けて低調で 386,059 t (計画比 95.2%、前年度比 94.7%) と計画・前年度の数量を下回りました。はっ酵乳等向けは概ね前年度並みで推移し 84,683 t (計画比 103.2%、前年度比 100.7%) と計画・前年度の数量を上回りました。脱脂粉乳・バター等向けは、生乳受託販売数量の減少に伴い上期は発生を抑えられましたが、下期の不需要期を中心に前年度を上回る状況も見られ、年間では 52,486 t (計画比 105.0%、前年度比 97.4%) と前年度の数量は下回った一方、計画数量を上回りました。クリーム等向けは 28,067t (計画比 100.0%、前年度比 97.9%)、チーズ向けは 1,107 t (計画比 98.9%、前年度比 97.5%) といずれも概ね計画並みに推移しました。(表2-1)

販売先を地域別に見ると、九州域内 476,837 t (前年比 97.9%)、中国地区 7,488 t (前年比 81.8%)、関西その他地区 68,077 t (前年比 86.0%) の実績となりました。(表2-2)

表2-2 地域別販売実績

(単位:kg、%)

地域別	実 績	前年比	構成比
九 州	476,836,965	97.9	86.3
中 国	7,487,897	81.8	1.4
四 国	0	0.0	0.0
関西その他	68,076,935	86.0	12.3
計	552,401,797	96.0	100.0

表3 販売乳価及び費用の比較

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年度		令和5年度	令和4年度	差
乳量		552,402t	575,374 t	△ 22,972 t
プール対象 生乳代金	金額	68,988,547 千円	65,040,763 千円	3,947,785 千円
	単価	124.888 円	113.041 円	11.847 円
成 分 加算金	金額	1,082,172 千円	1,056,106 千円	26,066 千円
	単価	1.959 円	1.836 円	0.123 円
生乳代金計	金額	70,070,720 千円	66,096,869 千円	3,973,851 千円
	単価	126.847 円	114.876 円	11.971 円
販売費用	金額	4,327,162 千円	4,421,269 千円	△ 94,107 千円
	単価	7.833 円	7.684 円	0.149 円
支払乳価	金額	65,743,557 千円	61,675,600 千円	4,067,957 千円
	単価	119.014 円	107.192 円	11.822 円

4. 乳代精算

生乳販売代金については、各月に販売して得たプール対象生乳代金に季節別乳価実施要領で定める各月の季節別乳価調整率（93～114％）を乗じた季節別調整後金額を、会員ごとの乳量であん分して精算しました。なお、令和5年度は、季節別乳価実施要領を一部改正し、季節別乳価調整率を変更しています。

成分加算金については、乳業者からの受取成分加算金を各会員の成分基準値上回り量に応じてあん分しました。

販売費用については、販売手数料（生乳受託販売代金（基本乳代＋成分加算金）の0.3％）、生乳検査料（販売数量に0.12円/kgを乗じた金額）、送乳経費（実費）・CS冷却費（実費）・集乳経費（実費）をそれぞれ会員ごとの乳量であん分して乳代から控除しました。

月ごとの調整により発生した季節別調整額の残高と借越しの金利負担額は6～11月の乳量であん分し、3月分生乳代金と同時に精算しました。（表4）

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

令和5年度畜産物価格において、加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の総交付対象数量は330万トン（前年度△15万t）、補給金単価は8.69円/kg（前年度＋0.43円/kg）、集送乳調整金単価は2.65円/kg（前年度＋0.06円/kg）、合計11.34円/kg（前年度＋0.49円/kg）となりました。

本会の交付対象数量は、全国の令和5年度年間販売計画における特定乳製品向け（脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向け）の合計数量が総交付対象数量を約4.9％超過したことから、申請数量に

対し約4.9％の調整がなされ、80,392,700kgとなりました。

加工原料乳認定数量は80,461,910kgとなり、交付対象数量を69,210kg上回りましたが、交付対象数量を下回った事業者があったため、農林水産省によって調整・再配分が行われ、最終的な交付対象数量は80,462,000kgとなり、認定数量全量に対して補給金および集送乳調整金が交付されました。

これらを踏まえ、生産者補給金699,213,996円、集送乳調整金213,224,060円、総額912,438,056円を四半期ごとに（ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に支払い）会員を通じて支払いしました。なお、受託乳量1kgあたりの単価は、生産者補給金が1.275円/kg（前年度＋0.082円/kg）、集送乳調整金が0.389円/kg（前年度＋0.015円/kg）となりました。

表5 加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金について

項 目	数 量
交付対象数量（当初）	80,392,700kg
交付対象数量（再配分後）	80,462,000kg
認定数量	80,461,900kg
補給金交付数量	80,461,900kg

項 目	単 価	金 額
生産者補給金	8.69円/kg	699,213,996円
集送乳調整金	2.65円/kg	213,224,060円
合計	11.34円/kg	912,438,056円

6. 生乳受託販売業務の合理化の推進

令和3年度に発出された生産局長通知による「中長期的視点に立った今後の指定生乳生産者団体の方向性について」を受け、本会では生乳受託販売業務の合理化を推進することを目的に会員と連携して「業務推進

表4 生乳代金の精算

月	プール対象 生乳代金 (千円)	季節別 調整率 (%)	季節別 調整後金額 (千円)	成分加算金 (千円)	販売費用 (千円)	支払乳代 (千円)	季節別 調整額 (千円)	累計季節別 調整額 (千円)
4	5,876,229	94	5,523,655	96,135	396,745	5,223,045	352,574	352,574
5	5,988,103	94	5,628,817	92,261	397,704	5,323,373	359,286	711,860
6	5,592,375	100	5,592,375	80,253	365,007	5,307,622	0	711,860
7	5,290,082	110	5,819,090	63,583	330,591	5,552,083	△529,008	182,852
8	5,477,649	110	6,025,414	55,627	333,257	5,747,784	△547,765	△364,913
9	5,518,985	114	6,291,642	62,260	320,367	6,033,535	△772,658	△1,137,571
10	5,766,801	105	6,055,141	86,354	335,765	5,805,730	△288,340	△1,425,911
11	5,666,689	100	5,666,689	97,754	342,582	5,421,862	0	△1,425,911
12	5,764,306	93	5,360,805	112,183	358,694	5,114,294	403,501	△1,022,410
1	5,969,304	93	5,551,453	115,702	373,613	5,293,541	417,851	△604,558
2	5,866,954	93	5,456,268	105,375	368,790	5,192,853	410,687	△193,872
3	6,211,069	93	5,776,294	114,685	404,047	5,486,933	434,775	240,903
計	68,988,547		68,747,644	1,082,172	4,327,162	65,502,654	△240,903	

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

計画」を策定しました。

その後、個人別乳代精算の実施に向けた協議・検討を進めましたが、会員の業務手法は本会設立以前から各会員独自の方法が確立されており、その平準化には時間を要し協議は足踏み状態となりました。

このため、本年11月には「生乳受託販売業務の合理化に係る基本方針」を決定し、合理化の推進具体策と取り組む手順を定めました。まず、会員業務の調査を再度行い、受託・販売乳量の確定業務について各会員の違いを整理して検討を開始しました。具体的には個人別受託乳量の確定を本会にて一元的に行うため、乳量等の関連データを本会へ集約する仕組みの検討を進めました。

その一段階目となるバルク乳量の集約については、先行して会員が実施している、集乳乗務員が電子端末へ集乳データを入力し集約する仕組みの導入を検討し、会員への説明会を実施するなど準備を進めました。併せて、乳量の集約においては、より人手を必要としない集乳車両への流量計搭載による集乳データ集約の仕組みについても検討を行いました。導入費用が高額であることや機器の流通に課題があることから一旦見送りとしました。

また、本会への情報集約後の取り組みを想定して、集約した情報の編集及び会員システムとの連携に必要なシステムの検討、合理化手段の一つである県域を越えた集乳に向けて対象となり得る路線の検討、ローリー保険の適用条件の確認等を会員・業務委託先運送会社と連携のうえ、継続した協議を行いました。

7. 乳用牛繁殖改善事業

生産者の繁殖改善の取り組みを支援するため、本事業においてPAGs（乳汁中妊娠関連糖蛋白質）検査への助成を実施しています。本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した生産者に対し、1検体あたり300円（税抜）、夏場の受胎率向上を目的に6月から11月は1検体400円（税抜）の助成を実施しました。補助対象検体数は5,085本（前年比97.3%）、補助総額は1,760,300円となりました。

8. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

(1) 会員実施分 事業総額 30,000 千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてFacebookを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けて発信しま

した。

(2) 本会実施分 事業総額 38,953 千円

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日に5類感染症に移行され、感染症法上の行動制限がなくなる中、積極的に生活者と対面で行う取組を展開しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動としては、7月29日と8月26日に「牛乳は、今。」をメインコピーに広告を掲出しました。購読者に牛乳の「今」を想起してもらえよう、かつてないほど厳しい生乳生産環境の中でも安全安心な生乳生産に取り組んでいる生産者の姿と率直な言葉を交えた内容とし、「今こそ飲んでほしい」と牛乳消費を呼びかけました。なお、本広告においてJAA広告賞と毎日広告デザイン賞を受賞しました。

生活者と対面で行うイベントとしては、6月10日に鹿児島中央駅前アミュ広場にて「ハッピーミルクフェスタ in 鹿児島 2023」を、11月18日に大分駅前広場にて「ハッピーミルクフェスタ in 大分 2023」を開催し、会員・乳業者と連携して消費拡大を訴えました。

不需要期の牛乳消費拡大の施策としては、11～3月にかけて牛乳・バター利用拡大推進運動を実施し、酪農家自らが牛乳・乳製品の消費拡大運動を率先して行い生活者に向けて広く消費拡大の必要性和協力を呼びかけました。また、インバウンド等牛乳乳製品消費拡大緊急対策事業と牛乳等不需要期需給対応事業を活用し、九州7県のフードバンクに会員と連携してLL牛乳約46千本を無償提供する取り組みを行いました。

(3) 牛乳定着化事業

事業総額 17,331 千円（中央酪農会議助成金）

中央酪農会議の事業を活用し、酪農理解醸成・牛乳消費拡大活動を実施しました。インターネット・SNSを活用した取り組みとしては、「#牛乳ヒゲチャレンジ2023」、「牛乳川柳コンテスト」を実施しました。また、11～2月には牛乳×スポーツという視点で福岡ソフトバンクホークスとタイアップした「#九州ミルクエール」プロジェクトを、1～2月には牛乳購買の促進のため、イオン九州・系列店の各店舗で「ミルク de 応援キャンペーン2024」を実施しました。

12月の冬休み時期には子供達が牛乳・酪農に興味を持つきっかけになるよう「自習ノート」を作成・配布し、2月には牛乳・乳製品料理への動機付け・定着化を図るため「九州ミルク料理コンクール」を実施しました。

(4) 酪農教育ファーム事業 事業総額 3,174 千円

（中央酪農会議助成金）

生活者への酪農理解醸成を目的として、幼児から学生、保護者及び教育関係者を対象に酪農体験を実施する酪農教育ファーム活動を実施しました。

5月には推進委員会を開催し活動の報告と計画について協議しました。8月には教師のための酪農体験学習会

及び現地会議を開催し、近隣の小中学校の教師とその家族、大学生、高校生、酪農家、関係者を含め大勢の方が参加しました。今回新たに乳業者を講師に招き、牛乳が消費者に届くまでを話してもらうことや体験学習会の様子を YouTube で生配信し、未体験者に酪農体験を説明するためのアーカイブ動画の作成に取り組みました。

その一方で、体験学習効果を高めるための教材を作成しました。体験学習の前後で牛、酪農家の一日、生乳が搾られ牛乳となり消費者に届くまでを遊びながら学べる教材となっています。

新規認証については、認証牧場 1 戸とファシリテーター 4 名が新規認証を取得しました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は、表 8-1、事業費の内訳は表 8-2 のとおりです。

表 8-1 (単位 認証牧場：戸、ファシリテーター：人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	4	9
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	7	14
大分	3	10
宮崎	8	13
鹿児島	4	6
計	30	56

表 8-2 単位 (千円)

事業	内 訳		実績
	委託費	実施者負担	
九州地区推進委員会	206	0	206
スキルアップ研修会旅費補助	32	0	32
新規認証牧場現地審査	7	0	7
教員対象酪農体験学習会	796	0	796
教材作成	993	0	993
事業推進費	1,140	0	1,140
合計	3,174	0	3,174

9. 生乳検査事業

(1) 生乳検査成績

各検査項目(脂肪分率・蛋白質分率・乳糖分率・無脂乳固形分率・遊離脂肪酸・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数)の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月 2 回、年 24 回実施しました。

乳質検査結果は年間加重平均で脂肪分率 3.97% (前年度 3.94%)、無脂乳固形分率 8.84% (前年度 8.81%) となり、直近の 5 年間では乳脂肪分、無脂乳固形分ともに最も高い数値となりました。

体細胞数については 20.8 万 /ml と前年度 (21.0 万 /ml) より減少しており、過去 5 年間で見ても減少傾向にあります。夏の猛暑と長引く残暑により、搾乳牛にかかるストレスは増大しましたが、生産者の適切な飼養管理により高品質な生乳が生産されました。

細菌数の平均値は 2.4 万 /ml となり前年度 (2.4 万 /ml) と同レベルでの衛生的乳質を維持しました。一方、

ペナルティバルクの発生率は 0.5% (前年度 0.3%)、ペナルティ乳量の発生も 0.2% (前年度 0.1%) となりいずれも前年度より僅かながら増加しました。

氷点の検査は、改善が必要な生産者について会員への報告と指導を要請しました。しかし、基準外のバルククーラーの割合については 1.4% となり 4 年度 1.0% より増加し、過去 5 年で最も高い比率となっています。その原因と対策については、会員と情報共有や検討を実施しました。

また、継続して脂肪酸組成 (デノボ FA、デノボ Milk、プレフォーム FA) の検査を実施し、搾乳牛の飼養管理への活用につながるよう会員へデータを提供することにより、検査所機能の充実に努めました。

過去 5 年間の乳質等の推移は表 9-1 のとおりです。

表 9-1

年 度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
脂肪分率	3.88%	3.90%	3.92%	3.94%	3.97%
無脂乳固形分率	8.78%	8.82%	8.83%	8.81%	8.84%
全固形分率	12.66%	12.72%	12.75%	12.75%	12.81%
体細胞数	22.1 万	21.5 万	20.7 万	21.0 万	20.8 万
細菌数	2.8 万	3.1 万	2.5 万	2.4 万	2.4 万
氷点 -0.510℃ を超えるバルクの比率	0.9%	0.7%	0.4%	1.0%	1.4%

(2) 生乳検査本数

配分検査は酪農家戸数の減少により前年度比 92.9%、乳用牛群検定検査は搾乳牛頭数の減少により前年度比 95.8% となりました。生乳取引検査は前年度比 95.2%、生産者指導のための指導検査は前年度比 96.8%、依頼検査は前年度比 103.0%、PAGs 検査は前年度比 90.7% となり、検査総本数実績は計画比 96.0%、前年度比 95.7% となりました。

乳用牛群検定検査については本年度も九州全県の委託を受け実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代請求に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表 9-2、検査種・機器別の検査本数は表 9-3 のとおりです。

表 9-2 (単位：本)

内 容	年間計画	R5 年実績	R4 年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	26,535	24,985	26,907	94.2%	92.9%
配分成分検査	26,535	24,985	26,907	94.2%	92.9%
配分再検査	1,165	739	1,183	63.4%	62.5%
牛群検定検査	921,480	885,939	924,418	96.1%	95.8%
取引検査	45,821	43,863	46,059	95.7%	95.2%
指導検査	6,973	6,751	6,976	96.8%	96.8%
依頼検査	17,413	17,363	16,862	99.7%	103.0%
PAGs 検査	5,127	4,479	4,939	87.4%	90.7%
総検査本数	1,051,049	1,009,104	1,054,251	96.0%	95.7%

表 9-3 上段：本数 下段：前年比

検査種別	コンピフォス	バクトスキャン	PAGs 検査
配分検査	24,985 92.9%	24,985 92.9%	— —
牛群検定検査	885,939 95.8%	— —	— —
依頼検査	15,352 102.6%	2,011 105.9%	4,479 90.7%
取引検査	43,863 95.2%	— —	— —
配分再検査	717 61.9%	22 88.0%	— —
指導検査	5,342 95.4%	1,409 102.5%	— —
合 計	976,198 95.8%	28,427 94.1%	4,479 90.7%

(3) 生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し 0.12 円 / kg を徴収しました。その他の検査料金は乳用牛群検定 45 円 / 本、依頼検査は成分・体細胞で 100 円 / 本、細菌検査 300 円 / 本、PAGs 検査 800 円 / 本です。

抗菌性物質検査用ディスクシャーレについては、100 円 / 枚でふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

(4) 検査精度

本会は精度管理認証制度において、「検査部門」（乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数）及び「検体採取部門」について認証を受け、年 4 回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持しました。

また、九州域内の検査精度の向上と平準化を図るため、CS・乳業者の検査室（18 か所）を対象に、九州域内生乳検査施設クロスチェックを年 3 回実施しました。

機器の整備については、精度の維持、管理のため自主点検及び機器メーカーによる定期点検や整備を実施しました。加えて修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、内部研修や機器メーカーの指導によりメンテナンスを熟知した検査員の養成に努めました。

さらに、検査員の検査技能向上のため、乳技協の生乳技術研修会に参加し知識や技術の習得を図りました。

(5) 検査技術の普及

会員 CS 職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を 5、8、10 月で 3 回開催、また、会員からの要請により随時の検査技術研修会を 2 回開催し、組合・CS 等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など計 21 名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

(6) 集送乳担当者研修会

集送乳乗務員に対する研修会を 3 会員に延べ 5 回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に

職員を派遣しました。

(7) 生乳の安全・安心の確保

「生乳の安全・安心の確保のための九州協議会」は、行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を会員としており、令和 5 年度は福岡市で 4 年ぶりに対面開催いたしました。また、会員の安全・安心担当者会議も同日開催しました。更に、令和 5 年 11 月に牛乳から抗菌性物質が検出され製品回収となる事案が発生したことにより、生乳の安全性を確保するための更なる対応が求められたことを受け、第 2 回の会員安全・安心担当者会議を開催し、今後の取組について協議致しました。

生産者に対しては、動物用医薬品適正使用と防疫徹底を周知するための下敷きを作製し、会員を通じ全生産者へ配布しました。

生乳生産管理チェックシートの記帳率 100% を達成するため「出荷伝票方式」を採用していますが、多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はなくなり、巡回検証において 6 項目全て×の農家数はゼロを維持しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表 9-4 のとおりです。

表 9-4 重点記帳項目等の記帳状況

6 項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6 項目全て×の農家
1,009 戸	33 戸	0 戸

J ミルクが実施するポジティブリストに係る管理対象物質検査 10 物質（動物用医薬品 4 物質、殺菌用消毒剤・殺虫剤 6 物質）の結果は、全てのサンプルで基準値以下でした。

また、J ミルクの依頼により生乳中のアフラトキシン M 1 検査を 1 月に 2 検体（全国 11 検体）実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

規格外生乳の廃棄事故は 54 件・284 トン（前年度 76 件・367 トン）発生し、前年度より件数・廃棄乳量ともに減少しました。発生原因別で最も多いのは抗生物質陽性で、22 件・125 t（前年度 27 件・160 t）と、原因別割合の 41% を占めました。発生要因は、治療牛の勘違い等による誤搾乳、家族・従業員間での連携ミスとなっています。次いで多いのは細菌数異常による廃棄で、件数 20 件・98 t（前年度 17 件・80 t）発生し全体の 37% を占めました。多くの規格外生乳廃棄は人為的ミス、搾乳施設の点検漏れなど事前に確認すれば未然に防止できるものでした。対策として廃棄事故発生の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員への情報提供することで廃棄乳削減の周知徹底を図りました。

(8) 生乳品質共励会の開催

令和 4 年度生乳品質共励会を令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は 1,021 戸（大学校、高等学校を含む）で、

最高得点は1,193点・平均点は899点（前年度+8点）となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部 黒木英教氏1,169点（宮崎県）・第2部 山口直敏氏1,193点（長崎県）・第3部 右田祐樹氏1,171点（熊本県）となり、その他 優秀賞30名・優良賞（1,000点以上）220名（前年度199名）の生産者が受賞されました。

10. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

- (1) 生乳生産者需要確保事業 16,363,635 円
- (2) インバウンド等牛乳乳製品消費拡大緊急対策事業 265,914 円
- (3) 国産チーズ生産奨励事業 532,360 円
- (4) 加工原料乳生産者経営安定対策事業 84,521,182 円

11. 酪農経営改善・需給均衡対策事業

Jミルクが実施した2023年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち酪農生産基盤強化総合対策事業を活用し、助成金は本会実施分が500,000円、会員実施分が8,210,653円、合計8,710,653円となりました。

12. 総務部門

(1) 内部留保の管理

前年度剰余金については目的積立金78,000千円（経営健全化積立金8,000千円・検査機器積立70,000千円）を積み立てることとし、内部留保による自己資本の回復を図りました。

(2) 効率的な資金管理

生乳代金の遅延未収金はありません。資金借入については金融機関との情報交換や今後の借入について協議・交渉を行いました。

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応

感染症法における同感染症の類型変更に伴い、体調不良時の出勤については法に沿って対応しました。また会議については現地出席を基本としながらも、必要に応じてハイブリッド形式の会議に取り組みしました。

勤務体制についても出勤を基本とし、マスク着用や手洗い等の予防行動については職員個人の対応に任せることとしました。職場内感染の防止策としては、前年度に引き続き換気を徹底するとともに、必要に応じて消毒作業を行いました。

(4) インボイス制度への対応

同制度の開始に伴う各種特例等の内容を確認し、必要に応じて経理処理の変更を行いました。

(5) コンプライアンス計画の推進

コンプライアンス遵守の意識付けのため、セルフ

チェックを実施するとともにフィードバックのための面談を行いました。

コンプライアンスに係る研修会として、8月に役員向け研修会（パワーハラスメント）・11月に職員向け研修会（個人情報保護法）を実施しました。

(6) 情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家及び関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

第25年度 貸借対照表

（令和6年3月31日現在）

単位（千円）

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,687,528	流動負債	8,281,847
預金	527,595	事業未払金	8,162,636
事業未収金	8,215,323	リース債務	8,813
雑資産	9,248	雑負債	104,268
貸倒引当金	△ 64,638	賞与引当金	6,130
固定資産	119,411	固定負債	33,715
有形固定資産	20,626	負債の部合計	8,315,562
無形固定資産	0	出資金	70,000
外部出資その他の資産	98,785	利益準備金	140,000
		特別積立金	10,000
		目的積立金	209,000
		繰越利益剰余金	62,377
		純資産の部合計	491,377
資産の部合計	8,806,939	負債・純資産の部合計	8,806,939

第25年度 損益計算書

（令和5年4月1日より令和6年3月31日まで）

単位（千円）

科目	金額
1 事業総利益	246,309
(1) 販売事業収益	4,345,220
(2) 販売事業費用	4,185,474
販売事業総利益	159,746
(3) 検査事業収益	114,495
(4) 検査事業費用	27,932
検査事業総利益	86,563
2 事業管理費	194,470
(1) 人件費	130,737
(2) 旅費交通費	7,387
(3) 業務費	12,428
(4) 諸税負担金	9,267
(5) 施設費	32,491
(6) その他事業管理費	2,161
事業利益	51,839
3 事業外収益	963,406
4 事業外費用	958,789
経常利益	56,456
5 特別利益	0
6 特別損失	0
税引前当期純利益	56,456
法人税等合計	417
当期純利益	56,039
繰越利益剰余金期首残高	6,338
繰越利益剰余金期末残高	62,377

令和5年度生乳品質共励会について

去る7月24日、福岡市内のホテルにて令和5年度生乳品質共励会表彰式を開催いたしました。

最優秀受賞者はこちらの方々です。



下段左より 第1部 黒木英教さん、第2部 山口直敏さん、
熊本県酪連 小池泰隆常務理事（第3部 右田祐樹さん代理）



第3部 右田祐樹さん

最優秀受賞者のコメント

第1部 最優秀賞

黒木 英教 さん

酪農を始めて25年になりますが、酪農は基本毎日の仕事であり決して楽ではない仕事であるため、正直なところ乳価に関しては不満を感じております。

消費者の方々に「美味しい牛乳」を飲んで頂くために、コストをかけて高品質な生乳生産に取り組んでおり、これまで何度か生乳品質共励会で表彰を頂いていますが、品質が良くてもあまり乳価の価格差がないのはおかしいと思います。

本日の受賞者や成績上位の方の乳価は、他と差をつけて頂ければと思います。

第2部 最優秀賞

山口 直敏 さん

本日はこのような賞をいただき有難うございます。今回で5回目の最優秀賞を受賞しました。

今の乳価は2回値上げしてもらったので、酪農経営改善には、今後いかにコストを下げるかだと思います。

4年前に牛舎を立てました。初めは建設費が高額になり無理だと思っていましたが、ネットを利用したり周りの協力をもらい、出来ることは自分達でやって建設しました。完成までに丸2年かかりましたが、金額をかなり抑えることができました。

ほぼ全て自分達でやり、低コストで建てましたが、恥ずかしくない牛舎になったと思いますので、是非見に来て下さい。

第3部 最優秀賞

右田 祐樹 さん

生乳品質共励会で最優秀賞を受賞し、大変光栄に思っております。

酪農は決して楽な仕事ではありません。しかし、牛たちの健康と安全を第一に考え、愛情を込めて育てているからこそ、このような栄誉をいただくことができたのだと思います。

今後も、より高品質な生乳を生産できるよう、技術研鑽に努めるとともに、地域酪農の発展にも貢献していきたいと考えております。

令和5年度生乳品質共励会の結果について

生乳品質共励会は、開催要領に基づき昨年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価しています。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点-0.520℃以下という、厳しいものになっています。

昨年は、6～8月の異常な暑さの後、残暑も厳しく、全国的に過去に例がない高温状態が続き、乳牛にとって過酷な天候となりました。しかし、日頃から実施している暑熱対策や的確な飼養管理など生産者の努力により、乳成分・衛生的な品質で高い水準を維持することができました。

令和5年度は、対象となる1,030バルクの平均点が899点（前年+8点）となりました。生産乳量階層別に3部門（第1部250ト未満 宮崎県 黒木英教氏、第2部250ト以上500ト未満 長崎県 山口直敏氏、第3部500ト以上 熊本県 右田祐樹氏）の3名に最優秀賞・九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

また、副賞として第1部の黒木氏には（一社）中央酪農会議会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞、第2部の山口氏には九州農政局局長賞と（一社）Jミルク会長賞、第3部の右田氏には、（一社）日本乳業協会会長賞と全国酪農協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

生産規模に関係なく上位30名には優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された220名の優良賞受賞者には「2023優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。

優秀賞の方々は、下記のとおりです。

令和5年度 九州生乳販連生乳品質共励会 優秀賞一覧表

番号	県	氏名	得点	規模別 ランク	表彰	番号	県	氏名	得点	規模別 ランク	表彰
1部	宮崎	黒木 英教	1,169	1	1部最優秀賞	15	熊本	中村 竜郎	1,142	3	優秀賞 15
2部	長崎	山口 直敏	1,193	2	2部最優秀賞	16	熊本	上田 健治	1,141	2	優秀賞 16
3部	熊本	右田 祐樹	1,171	3	3部最優秀賞	17	宮崎	早田 卓史	1,140	2	優秀賞 17
1	福岡	松永 慎也	1,171	2	優秀賞 1	18	宮崎	赤木 大介	1,139	2	優秀賞 18
2	熊本	平山 将	1,167	2	優秀賞 2	19	熊本	(有)隈部牧場	1,137	3	優秀賞 19
3	大分	(有)田中牧場	1,166	2	優秀賞 3	20	熊本	竹野 和也	1,136	2	優秀賞 20
4	福岡	森田純一郎	1,164	2	優秀賞 4	21	熊本	山下 誠也	1,135	2	優秀賞 21
5	熊本	吉村 信明	1,156	1	優秀賞 5	22	熊本	荒木 和也	1,135	1	優秀賞 22
6	大分	竹内 正敏	1,154	3	優秀賞 6	23	熊本	(有)ドリームファーム山本	1,134	3	優秀賞 23
7	熊本	原 健一	1,152	1	優秀賞 7	24	福岡	野田 貞治	1,134	2	優秀賞 24
8	熊本	村岡 泰司	1,152	1	優秀賞 8	25	熊本	(有)生山牧場	1,133	2	優秀賞 25
9	長崎	松谷圭一郎	1,151	1	優秀賞 9	26	鹿児島	(有)池田農場	1,130	3	優秀賞 26
10	鹿児島	山下 栄一	1,149	3	優秀賞 10	27	熊本	(有)茶ノ木	1,130	3	優秀賞 27
11	長崎	松本 良策	1,148	1	優秀賞 11	28	熊本	坂梨 博則	1,130	2	優秀賞 28
12	福岡	藤井 正剛	1,146	2	優秀賞 12	29	熊本	坂本 克美	1,129	2	優秀賞 29
13	宮崎	温水 優子	1,146	2	優秀賞 13	30	宮崎	浜崎 正吉	1,128	2	優秀賞 30
14	鹿児島	牧原 浩一	1,144	2	優秀賞 14	(敬称略)					

1部：250ト未満 2部：250～500ト 3部：500ト超

酪農家の皆様へ

畜安法施行規則の改正に伴い、生乳委託に係る申出の期限を設定しました。

令和7年度に向けた期限：令和6年 10 月 31 日

本期限の対象となる申出：令和7年度生乳委託計画において令和6年度の計画よりも 3,000 t 以上多い生乳の出荷を希望する申出

■令和6年4月1日に畜産経営の安定に関する法律（畜安法）施行規則が一部改正され、指定事業者が生産者からの生乳委託に係る申出を拒める正当な理由として、「生乳の取引の安定を図る観点から第1号対象事業を行うための準備に要する期間を勘案して定めた申出の期限を経過後に申出」されたケースが追加されました。

■指定事業者である九州生乳販連としては、生乳販売に影響を及ぼすほどの増量については、乳業メーカーとの取引交渉を行ううえで早期に情報の把握を行うことが望ましいとの考え方から、申出の期限を設定しました。

■令和7年度生乳委託計画において令和6年度の計画よりも 3,000t 以上多い生乳の出荷を希望する場合は、令和6年 10 月 31 日までに生乳委託計画のご提出をお願いします。

■本期限の対象となる申出が期限を過ぎていた場合は生乳委託に係る申出をお断りします。

畜安法施行規則第 19 条ってなに？

畜産経営の安定に関する法律（畜安法）施行規則第 19 条では、指定事業者が生産者からの生乳委託に係る申出を拒める正当な理由として、以下のような事項が定められています。

- ・ 季節的な変動要因を超えた増減
- ・ 短期間の取引（年末年始のみ等）
- ・ 生乳の取引の安定を図る観点から第 1 号対象事業を行うための準備に要する期間を勘案して定めた申出の期限を経過後に申出
- ・ 特定の用途への生乳販売（特定の用途・乳業への販売を条件とする場合等）
- ・ 生乳の品質が基準に不適合
- ・ 合意なく約定の数量から大幅に増減、等

生乳委託計画ってなに？

次年度における毎月の生乳生産量、委託生乳量、委託割合及びそれぞれの日量等を記載した計画のことで、様式は以下のとおり（例）です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
生乳生産量(kg) ①													
日量(kg/日) ②													
委託生乳量(kg) ③													
日量(kg/日) ④													
委託割合(%) ③÷①													
委託割合(日量)(%) ④÷②													
差(kg) ①－③													
集乳頻度 (毎日:毎、隔日:隔)	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	



酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和6年6月の生乳出荷戸数は1,015戸で、令和6年3月時点の1,045戸と比較すると30戸の減少となりました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

4～6月の乳用種雌牛飼養頭数は、23ヵ月令以下・24ヵ月令以上・総頭数ともに前年を下回った推移となりました。なお、23ヵ月令以下の頭数は1割以上減と減少幅が大きくその幅も少しずつ拡大傾向にある一方、24ヵ月令以上の頭数は前年を若干下回った水準での推移となっています（表1）。

表1. 乳用種雌牛飼養頭数 (単位: 頭)

		4月	5月	6月
23ヵ月令以下		25,460	25,155	24,881
	増減	-3,224	-3,299	-3,510
	前年比	88.8%	88.4%	87.6%
24ヵ月令以下		71,572	71,170	70,716
	増減	-436	-504	-488
	前年比	99.4%	99.3%	99.3%
総頭数		97,032	96,325	95,597
	増減	-3,660	-3,803	-3,998
	前年比	96.4%	96.2%	96.0%

注: Jミルクホームページより

3～5月の出生総頭数は、5月は前年を上回ったものの3・4月は前年を下回り、期間合計でも前年を下回りました。また、その内訳として、乳用種雌、乳用種雄、交雑種ともに前年を下回りました（表2）。

表2. 出生頭数 (単位: 頭)

		3月	4月	5月	累計(3-5月)
総頭数		3,036	2,209	2,087	7,332
	増減	-391	-77	31	-437
	前年比	88.6%	96.6%	101.5%	94.4%
うち、乳用種雌		739	439	403	1,581
	増減	-6	-34	-10	-50
	前年比	99.2%	92.8%	97.6%	96.9%
うち、乳用種雄		282	170	135	587
	増減	-68	-28	-23	-119
	前年比	80.6%	85.9%	85.4%	83.1%
うち、交雑種		1,328	998	873	3,199
	増減	-256	-1	28	-229
	前年比	83.8%	99.9%	103.3%	93.3%

注: Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

4～6月の生乳受託販売数量は、24ヵ月令以上の

乳用種雌牛飼養頭数の回復や乳価改定による酪農環境の改善もあってほぼ前年並みでの推移となりました。同様に、都府県・北海道および全国でもほぼ前年並みでの推移となっています。（表3）。

表3. 生乳受託乳量 (単位: t, %)

		4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州		49,350	49,539	45,780	144,670
	前年比	99.9%	99.9%	100.8%	100.2%
都府県		258,049	263,279	244,119	765,447
	前年比	99.9%	100.4%	99.9%	100.1%
北海道		332,521	346,543	328,738	1,007,801
	前年比	101.0%	100.3%	98.1%	99.8%
全国		590,570	609,822	572,857	1,773,249
	前年比	100.5%	100.3%	98.9%	99.9%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績 (速報) より

注: 公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

一昨年度11月以降の乳価改定に伴う牛乳・乳製品の値上げの影響を受け、飲用向けは4～5月で、クリーム等向けは4～6月で前年を下回りました。こうした需要の落ち込みを受け、4～6月の脱脂粉乳・バター等向けは前年を上回りました。

全国が生乳販売状況も、九州同様に値上げの影響を受けて飲用向けが前年を下回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回っています（表4）。

表4. 用途別販売数量 (単位: t, %)

	用途	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	飲用 (前年比)	31,760 95.4%	33,917 96.6%	33,941 100.1%	99,618 97.4%
	はつ酵乳 (前年比)	7,204 101.4%	7,540 103.6%	7,164 100.3%	21,909 101.8%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	7,830 126.0%	5,705 125.0%	2,608 127.8%	16,143 125.9%
	生クリーム (前年比)	2,461 91.3%	2,281 91.0%	1,986 88.1%	6,728 90.2%
	チーズ (前年比)	96 100.2%	95 99.1%	81 84.9%	272 94.7%
全国	飲用 (前年比)	235,895 96.7%	252,305 96.7%	256,174 98.5%	744,375 97.3%
	はつ酵乳 (前年比)	35,234 97.0%	37,066 98.7%	36,565 99.3%	108,864 98.3%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	174,403 108.0%	174,065 105.7%	135,178 94.6%	483,647 103.1%
	生クリーム (前年比)	107,314 100.3%	107,475 100.9%	106,087 101.7%	320,875 101.0%
	チーズ (前年比)	37,724 97.6%	38,910 102.5%	38,853 109.8%	115,488 103.1%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績 (速報) より

4. 今後の生乳需給について

昨年8月の牛乳類の値上げから1年、昨年12月のバター・クリーム の値上げから半年以上が経過しました。この間、値上げに伴う需要の減少が見られ、また、江崎グリコ(株)がシステム障害により長期間にわたって市乳処理を停止した影響もあり、九州内の脱脂粉乳・バター等向けが増加する厳しい展開となりました。一方で、6月から7月にかけては、梅雨の期間が短かった影響もありましたが、需要の下げ止まりとそれに伴う生乳需給の改善が見られ、7月上旬は暑さにより一時逼迫しました。

今後、生乳生産段階においては為替の動向に伴う飼料価格の変動、夏場の猛暑、未經産牛頭数の減少等の影響が懸念されます。また、需要面においては、値上げから一巡した後の需要動向が不透明な中、食料品の相次ぐ値上がりによる買い控え等が懸念されます。

こうした不確定要素を多く抱える中ではありますが、本会としては引き続き需要の維持拡大に向けて酪農理解醸成・牛乳消費拡大活動に取り組むとともに、生乳需給の動向を見極めつつ需給調整と有利販売に努め、生産者の手取向上に繋げられるよう取り組んでまいります。

令和5年度乳用牛繁殖改善事業の実績について

1. 実施内容

繁殖改善に取り組む生産者を支援するため、本事業でPAGs検査の助成を行いました。

2. 対象者

令和5年4月～令和6年3月に本会検査所および会員検査施設にPAGs検査を依頼した生産者

3. 助成実績

(1) 助成単価 4～5月、12～3月は300円(税別)、6～11月は400円(税別)

(2) 助成総額 1,760千円

(3) 検体数(単位:本)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
484	514	500	429	362	326	336	395	468	491	373	407	5,085
												97.3%

PAGs 検査を実施することで、空胎牛の早期発見、受胎率の向上に繋がります！
令和6年度事業の実施については、前回号(No.86)に掲載しています。
是非ご活用ください！

加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ

1. 独立行政法人農畜産業振興機構より、令和5年度平均取引価格及び令和6年度補填基準価格等について通知がありましたのでお知らせします。

① 令和5年度平均取引価格	93.64円/kg
② 令和5年度補填基準価格	81.61円/kg
③ 令和6年度補填基準価格	85.20円/kg

* 上記価格は加工原料乳1kgあたり。

* 令和5年度においては、平均取引価格(①)が補填基準価格(②)を上回ったため、補填金の交付は行われません。

2. 令和6年5月31日開催の令和6年度第2回理事会において決定した、今年度の生産者抛出金単価:加工原料乳1kgあたり0.20円については、独立行政法人農畜産業振興機構に申請し、承認されましたので通知します。

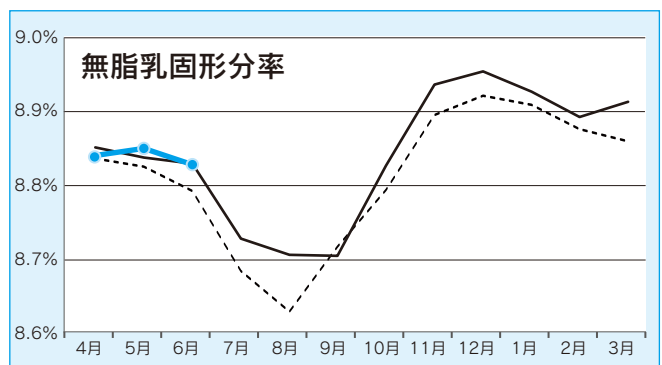
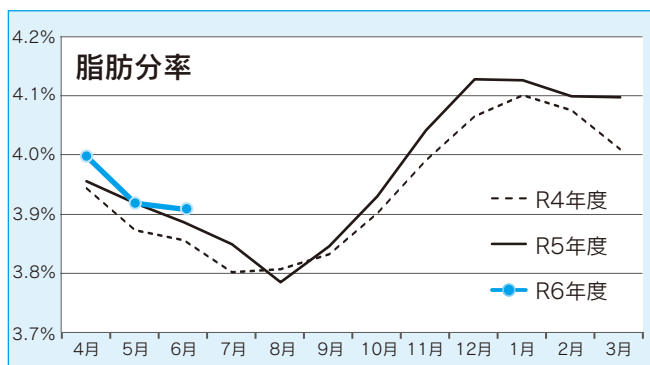
令和6年度生産者抛出金単価(加工原料乳1kgあたり)	0.20円/kg
----------------------------	----------

令和6年度会員別生乳受託販売数量

(単位：t、%)

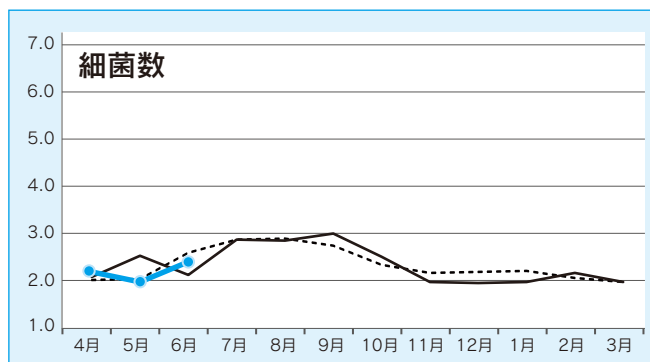
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4月	5,291	99.1	1,053	94.9	2,831	100.5	22,506	100.8	5,935	99.3	6,292	103.9	5,763	94.0	49,671	99.8
5月	5,289	98.6	1,065	97.9	2,843	100.6	22,792	101.5	5,858	97.8	6,335	103.7	5,681	93.0	49,863	99.8
6月	4,904	99.4	997	104.2	2,656	102.8	21,121	101.7	5,439	99.3	5,793	102.6	5,172	95.6	46,082	100.7
合計	15,483	99.0	3,114	98.7	8,329	101.3	66,420	101.3	17,233	98.8	18,420	103.4	16,616	94.1	145,615	100.1

令和6年度 月別受託生乳検査実績

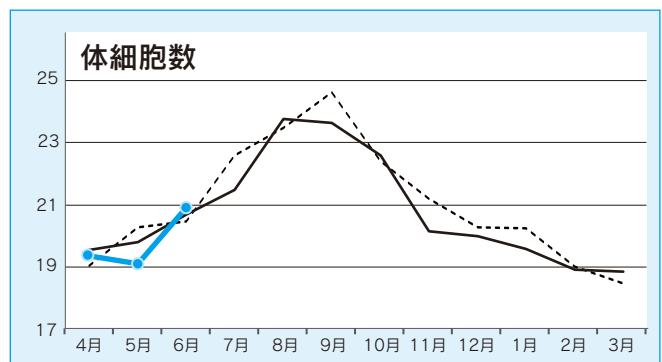


(単位：%)

(単位：%)



(単位：万/ml)



(単位：万/ml)

令和6年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量：t、前年比：％、単価：円/kg)

用途		4 月			5 月			6 月			第 1 四半期計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	22,065	93.9	134.272	22,905	95.0	134.809	23,990	99.2	135.240	68,960	96.0	134.783
	学校給食向け	2,827	98.5		4,220	102.6		4,295	91.5		11,341	97.1	
	域外飲用向け	7,065	98.7		6,991	98.0		5,880	111.5		19,936	101.9	
	飲用牛乳等向け計	31,957	95.3		34,116	96.5		34,165	100.0		100,238	97.3	
	はっ酵乳等向け	7,204	101.4		7,540	103.6		7,164	100.3		21,909	101.8	
	飲用等向け合計	39,161	96.4		41,656	97.7		41,329	100.1		122,146	98.0	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	7,932	125.6	92.713	5,807	124.5	96.999	2,652	127.4	98.790	16,391	125.5	95.443
	クリーム等向け	2,482	91.3		2,305	91.0		2,019	88.2		6,806	90.2	
	チーズ向け	96	100.2		95	99.1		81	84.9		272	94.7	
	特定乳製品向け計	10,510	115.1		8,207	112.5		4,752	106.4		23,469	112.3	
販売乳量合計		49,671	99.8	125.479	49,863	99.8	128.586	46,082	100.7	131.481	145,615	100.1	128.442

支払乳代

(単位 金額：千円、単価：円/kg)

項目	4 月		5 月		6 月		第 1 四半期計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基本乳代 ①	6,232,641	125.479	6,411,702	128.586	6,058,869	131.481	18,703,212	128.442
脂肪分加算金	47,018	0.947	41,754	0.837	36,679	0.796	125,451	0.862
無脂固形分加算金	50,279	1.012	51,295	1.029	46,151	1.002	147,726	1.014
成分加算金計 ②	97,297	1.959	93,050	1.866	82,830	1.797	273,177	1.876
季節別調整率 ③	94%	-	94%	-	100%	-	-	-
季節別調整金	-373,958	-7.529	-384,702	-7.715	0	0.000	-758,660	-5.210
調整後乳代 ④=①×③	5,858,683	117.950	6,027,000	120.871	6,058,869	131.481	17,944,552	123.232
販売手数料	18,990	0.382	19,514	0.391	18,425	0.400	56,929	0.391
生乳検査料	5,960	0.120	5,984	0.120	5,530	0.120	17,474	0.120
送乳経費	213,662	4.302	216,940	4.351	202,530	4.395	633,132	4.348
需要者負担額(運賃補填)	-1,761	-0.035	-2,563	-0.051	-2,866	-0.062	-7,189	-0.049
C S ・ 冷却費	52,519	1.057	51,020	1.023	51,822	1.125	155,361	1.067
集乳経費	134,296	2.704	134,185	2.691	124,210	2.695	392,691	2.697
プール費用 ⑤	423,667	8.529	425,079	8.525	399,652	8.673	1,248,397	8.573
差引乳価 ②+④-⑤	5,532,313	111.380	5,694,971	114.212	5,742,048	124.606	16,969,332	116.535

「2024 ながさきみなとまつり」に出展しました！

7月27日（土）～28日（日）の2日間、生活者へ日頃の牛乳愛飲の感謝を伝えるとともに、一昨秋以降牛乳・乳製品の値上げがあった中、これからも変わらず牛乳をご愛飲いただけるよう呼びかけることを目的として、長崎県酪連およびその会員組合の皆様、長崎県酪農青年女性会議の皆様のご協力を得て、2024 ながさきみなとまつりにブースを出展しました。

ブースでは、牛乳・カフェオレの無料試飲、模擬牛を使用した搾乳・哺乳体験等を実施しました。

また、イベント会場周辺では、リーフレット・チラシ等のサンプリングを行い、2日間合計 2,400 セットを好評のうちに配り終えることができました。

実施日		令和6年7月27日（土）～28日（日）
イベント名		2024 ながさきみなとまつり
会場		長崎水辺の森公園
展開内容	牛乳等無料試飲	成分無調整牛乳・カフェオレ 合計約 700 杯
	搾乳体験・哺乳体験	搾乳体験・哺乳体験（合計約 130 名）
	サンプリング	リーフレット・チラシ・フレーバーストロー・フルグラ小袋（2日間合計約 2,400 セット）



搾乳体験コーナー



哺乳体験コーナー



牛乳無料試飲コーナー



牛乳試飲の様子①



牛乳試飲の様子②



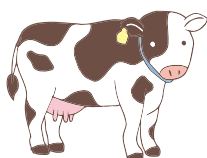
ブース内の様子

#牛乳ヒゲチャレンジ 2024 を実施しました！

牛乳月間の6月1日～30日に、牛乳を飲んでできた牛乳ヒゲの写真を撮り「#牛乳ヒゲチャレンジ 2024」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿した方の中から抽選で30名にLL牛乳1ケース(200ml×24本)と、その内、優秀作品の5名にオリジナルQUOカードPayをプレゼントするという内容のキャンペーン「#牛乳ヒゲチャレンジ 2024」を実施しました。

笑顔いっぱいの牛乳ヒゲ姿の写真が298件投稿され、キャンペーンを楽しみながら牛乳を飲んでいる様子が伝わってきました。

投稿の中には、牛乳を飲む姿の写真とともに酪農家や牛乳を応援するコメントがあり、牛乳を愛飲する様子とともに「最後の一滴まで大事にのみます」「おいしい牛乳をいつも届けてくれてありがとうございます！」といった声を聞くことができました。



今後も九州の酪農・牛乳に対する酪農理解醸成と牛乳消費拡大のための様々な施策を展開してまいります。今回のキャンペーンの内容、投稿写真については本会 Instagram アカウントやハッシュタグ等から閲覧することが出来ますので、こちらもぜひご覧ください。

九販連公式ホームページ・
SNS アカウントは
こちら！

- ホームページ <https://kyuhanren.com/>
- Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
- Instagram <https://www.instagram.com/kyusulovemilkclub/>
- X https://twitter.com/love_milk_club

R6年度 牛乳利用拡大推進運動について

九州産生乳の安定的な需要維持・拡大を目的として、今年度は生活者に「九州産」LL牛乳の美味しさや健康作りに役立つことを実感していただけるよう、牛乳利用拡大推進運動を実施いたします。

生乳出荷戸数にLL牛乳（24本入り）7c/sを乗じて総目標数量*とし、九州全体で達成に向けて取り組むこととしました。運動期間は令和6年12月～令和7年3月としています（詳細な運動期間と申込方法は各会員にご確認ください）。皆様の積極的な運動へのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

*実際の目標数量は案内送付時点の直近戸数で計算いたします。



【熊本県酪連】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

- ・商 品 名：九州生まれの牛乳
- ・種 類 別：牛乳（常温保存可能品）
- ・原 材 料 名：牛乳 100%
- ・内 容 量：200ml
- ・殺 菌：熊本県酪連・九州乳業㈱ 140℃ 3秒間
南日本酪農㈱ 140℃ 2秒間
- ・1ケース入り数：24本
- ・保 存 方 法：常温を超えない温度で保存
- ・賞 味 期 限：90日間

酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中！

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と連携しながら行う酪農理解醸成活動です。令和6年度は、九州地域で29戸の認証牧場、54名のファシリテーターが、子ども達に「食やしごと、いのちの大切さを伝える」ことを目的に酪農体験活動等を行っております。

募集についての詳細は所属組合または県連へお問い合わせください。

